

言葉の重み

岐阜市立岐阜清流中学校 3年

板倉 真子

あなたは「言葉の重み」について考えたことがありますか。私たちの周りには挨拶や普段の会話、SNSでのメッセージなど様々な言葉があふれています。その言葉たち一つ一つと向き合いその意味をよく考えてから使っている人は、少ないのではないのでしょうか。

私が言葉の重みを深く考えるようになったのは、小学生の頃のある体育の授業がきっかけでした。リレーで上手く走れず転んだ私を見て「ださ」「真面目にやれよ」と笑う声が聞こえてきました。そのとき自分への明らかな悪意を感じて、体がずっと冷たくなったのを覚えています。今思えばその人は冗談のつもりだったのかもしれませんが。この話を聞いて「それだけ?」と思う人がいるかもしれません。でも小学生だった私はその一言が本当にショックで、それから何かに挑戦するのが怖く感じるようになった時もありました。簡単に口から出る言葉が、人に治りの遅く深い傷をつけてしまうのです。

また心ない言葉は、SNS上でも当たり前のように飛び交っています。芸能人への理不尽な批判や、人の容姿を貶すコメント。匿名で好きに意見を言える今、人権侵害といえる言葉がネット上に多く見られます。あなたが書き込んでいる言葉は大丈夫でしょうか。本名を出して言えるものですか。今一度よく考えてSNSと向き合ってほしいです。

私たちは今中学3年生で思春期となり、前にも増して周りの言動で一喜一憂する年頃になりました。軽いいじりをずっと気にする人もいるし、良い意味で言ったとしても、その言葉を相手も同じように受け取るとは限りません。言葉は心を温める毛布にもなると同時に、深い傷をつけるナイフにも簡単に化けるのです。心ない言葉に傷つけられて追い込まれ、「死にたい」などになってしまう人もいます。言葉は時として、相手の命を奪う刃物のようなものになり得るのではないのでしょうか。私はその重みを理解し、自分の言葉がどんな影響をもつか、よく考えて使うようにしたいと思います。

私には大切な人がたくさんいます。当たり前のように私を支えてくれる家族や親身になって話を聞いてくれる友達、先生。大切な人と話す時間はかけがえのないもので、そんな人達がかけてくれる言葉は自分の力になります。例えば親が毎日欠かさずくれる「行ってらっしゃい」「おかえり」は当たり前のもに感じるけれど、この一言があるだけで心が少し和らぎます。そして親が私を決して否定せず、いつでも私自身と向き合って言葉を掛けてくれるおかげで、安心感や温もりを感じることができます。友達の「大丈夫だよ」「無理しないでね」にも先生の「頑張ったね」にも、それぞれにその人の思いや優しさが詰まっていて、知らないうちに自分を支えてくれているように思います。

このように大切な人と過ごす時間は、思い出と共に言葉をも残し私の心を温めてくれます。だからこそ私も言葉のもつ重みを大切にし、誰かの背中をそっと押せるような人間になりたいと思います。一人一人が「言葉の重み」を意識し自分の発言を見つめ直すことができれば、温かい言葉も増え、人と人との関わりを大切に思える世の中になっていくのではないのでしょうか。